

壽鷗外紀念會通信

No.162 春

「築地西洋軒」を読む

——山田風太郎のエリス像——

林 尚 孝

二〇〇六年三月一日、筆者はドイツ連邦共和国大使館を訪問した。森林太郎を訪ねて来日したエリーゼ・ヴァイゲルトのユダヤ人説について疑問を質すためであった。とくに、「ヴァイゲルトもヴァイゲルトもユダヤ姓であり、ヴァイカントから由来する」とする萩原雄一説について確証を得たかった。ペアーテ・フォン・デア・オステンさん（通訳・翻訳部長）は次のような回答を下された。「ユダヤ人であることが分かる姓はある」と、多くの例をあげて下さった。その上で「Weigerと Wieserもその姓だけからはユダヤ人であると判断することはできない」と、萩原説を明確に否定された。筆者の調査結果とも一致し、一件落着と判断した。

ところが、エリーゼが森鷗外を訪ねて来日した女性であると知ったペアーテさんは、日独協会刊行の書籍『日独交流の架け橋を築いた人々』（二〇〇五年刊）に、森鷗外の紹介記事が載っていると教えて下さった。東大医学部教授で鷗外記念会理事であった故津山直一氏が来日したドイツ人女性について次のように記していた。

ベルリンでは愛人エリス・ワイゲルトとのロマンスが生まれ、彼女は結婚する目的で鷗外の後を追って横浜港に着いた。しかし、鷗外にはすでに両親が定めた許婚者がいたので諦め、エリスはドイツに帰った。

エリーゼ・ヴァイゲルトの氏名がすでに判明しているのに、「舞姫」のヒロイン同名の女性が結婚を目的に来日したという新説であった。筆者が知る限り、これと同様な主張の研究文献はなく、津山氏が何を根拠に、このように書かれたのかは分からない。昨年九月友人の千野光久氏から教えられ、山田風太郎の短編「築地西洋軒」が、これと同じ設定であることを知った。

この度、その「築地西洋軒」を読み、そこに描かれた「エリス像」が、筆者らの「エリーゼ像」ときわめて近いことを驚くと同時に、山田風太郎という作家の凄さを再認識した。来日したドイツ人女性の本名が分かる船客名簿が発見される前年、一九八〇年に執筆された小説だから、風太郎は「舞姫」のヒロインの名をそのまま使っている。しかしここで造形された「エリス像」は、鷗外研究史の上でも見逃すことのできないものである。本『通信』の読者の中には「築地西洋軒」を読んでいない方もおられると思い、その内容をやや詳しく紹介しておきたい。

物語は、明治二十一年九月二十五日の午後四時前、小金井良精と森篤次郎が精養軒に二台の俵で乗り付け、二十日から滞在しているエリス・ワイゲルト嬢を訪ねたところから始まる。二人は、「希望に添うことが出来ないで、あきらめてドイツに帰ってほぐれまいか」と哀願するが、異国娘はそれをきっぱりと拒否する。

「ほんとうに彼は、あなたと結婚の約束をしましたか？」

「ヤー—— はい。と、エリスはうなずいた。向うの客がいつせいにもふりむいたほどであった。「あの人は、約束を守る人です。あの人は、嘘をつきません」

二人はエリスを帰国させようと精養軒に通いつめるが、彼女は「武士道の中には、嘘はつかない、約束は守るといふ徳目」があり、彼の言葉を信じると言い張り、「彼と早く逢わせて」を繰り返すばかりである。このような中で、「築地西洋軒」では、三組の決闘事件が起こり、九人の死者が出る。それぞれの事件でエリスが活躍し、並外れた資質を示すことになる。

精養軒には、エリスのほかに、お忍びの八十綱伯爵、ドイツ人の拳銃商人カール・ナウマン、フランス人香水商人のジャン・ロベールや、東京日日新聞の大熊雄象記者

が宿泊していた。

第一の決闘事件は、大熊記者と都新聞の波越余五郎記者との間で起こる。波越記者は主家筋の戸田伯爵夫人のスキヤンダルを報じた大熊記者の信用を失墜させようと企み、大熊記者を挑発し拳銃での決闘を承知させる。拳銃を扱ったことがない二人は築地の埋立地でピストルの練習をする。波越記者の発射した弾がたまたま物陰にいた乞食に当たり、血だらけで倒れる。波越は乞食を病院に運び去る。大熊は決闘を避けようと食事中に右手の人差し指をナイフで傷つける。それを見抜かれて卑怯者呼ばわりされた大熊は頸動脈を掻き切つて自殺する。一方、エリスは乞食のそばに転がっていた瓶の血に気づき、波越の嘘をみやぶる。翌日、埋立地で乞食の屍体とともに波越の切腹屍体が発見される。

第二の決闘事件は、香水商ロペールのもとに通ってきた細川侯爵家の二人の家扶、若名速雄と真木弁三郎の間に起こる。若名は言い値で買うといい、真木は高値すぎるとして斬り合いの騒ぎになる。数日後、二人の上司の朝倉と西がナウマンから拳銃を求め、拳銃による決闘で結着をつけることになったと告げる。決闘の朝、関係者が埋立地に赴くと、若名と真木は相打ちの形で倒れている。この屍体を見て、エリス

は他殺と見抜く。朝倉、西の二人は、それぞれ細川家の金を着服しており、これを隠すため、共謀して二人の部下を殺したのであった。

第三の事件は、八十綱伯爵がナウマンを挑発し、決闘を申し込む。ナウマンの介添人をエリスが引き受け、伯爵の介添人を朝日新聞の登戸貞信記者が引き受ける。エリスは、またもや伯爵の真意を見抜く。三日前の夜、三階の伯爵を訪ねてきた貴婦人の気分が悪くなり、二階のエリスの部屋で洗面所を借りる。貴婦人は藤戸子爵夫人であり妊娠していた。藤戸子爵が英国留学から帰国することになったため、不倫関係にあった伯爵は、決闘に名を借りてナウマンによつて射殺されることを計画した。エリスにそれを見破られた伯爵は部屋に戻り、頭を打ち抜いて自殺する。その後を追い、伯爵の少年従僕が、「主人の罪が世にさらされないことを天に祈る」という遺書を残して切腹する。このスキヤンダルを追っていたのが大熊雄象記者であった。

このような「賢くて洞察力のある」エリスを見た篤次郎は、「あれこそ兄の妻にふさわしい」とし、「四、五十日もかかるヨーロッパからただ一人、文字通り万里の波濤を越えてやって来たあのけなげさ」もあり、「万難を排して、兄貴の花嫁にすることに

努力しよう」と提案する。小金井良精は深くうなずき、「実は私もその気になっていたんだ」といった。ところが、エリスは突然帰国すると言いだす。

私、日本人が嘘つきだということがよくわかりました。……まともな決闘をしたひとは、一人もないわ！あのオークマ氏を毘にかけたナミコシ氏、マキ、アシナ氏を毘にかけたニシ、アサクラ氏、またこんどのヤソヅナ伯爵ばかりではありません。あの可哀そうな少年のアイジローをも含めて……彼らはみんな死んでしまいました。それも嘘を覆い消すための死です。みんな、何という嘘つきでしょう。私は日本人、が怖ろしくなりました。

山田風太郎は、いかにして、このような賢く洞察力と行動力に富むエリス像を構想したのであろうか。「築地西洋軒」を収めた『明治波濤歌』を始め彼の明治ものは、実在の人物と実際にあったエピソードを、作者独自のプロットの中に織り込むという虚実ない混ぜの手法をとっている。その際、山田はかなり綿密な調査を行っている。「築地西洋軒」でも、小金井喜美子の回想や星新一「祖父・小金井良精の記」などを精読し、そこから素材を得ていることは明瞭である。ただ重要なことは、彼がそれらの

記述を鵜呑みにせず、批判的に読み解いていることである。大多数の鷗外研究者が、小金井喜美子の回想をそのまま真実と受け止めていた時に、その不自然さを見抜いている。「万里の波濤を乗り越えてきたけなげな女性」が「金目当てにやってきた、少し頭の足りない路頭の花」ではありえず、「聡明で行動力と洞察力に富む」女性であると

考えなくてはおかしいと判断したに相違ない。また、エリスの突然の帰国理由についても、山田には納得できないところがあつたと思われる。エリスが結婚を前提に来日した可能性はすでに一九七二年に成瀬正勝により指摘されていたが、小説築地西洋軒は、彼女が鷗外と婚約して来日した女性である

と明確に主張した初めての作品として、また帰国理由を小金井良精らの説得によるとは見ず、彼女自身の決断によると考えた点も評価されるべきであろう。「築地西洋軒」の情報をお寄せ下さった千野光久氏と本稿にご意見賜った畏友二村一夫法政大学名誉教授に厚く御礼申し上げます。

《寄贈文献・資料》

- 『日露戦争と軍医森鷗外』明治二十七八年
役陣中日誌』を中心として』
森富 著 鷗出版 発行
寄贈
- 鷗出版 小川義一氏 寄贈
- 『明治女性文学論』
〈新・フェミニズム批評の会 編〉
翰林書房 発行
金子幸代氏 藤木直美氏 寄贈
- 『復刻ゼッキンゲンのトランペット吹き』
(楽譜・解説書) 瀧井敬子氏 編者
紀伊國屋書店 発行
寄贈
- 瀧井敬子氏 寄贈
- 『KAWAIIJITAKARISUJIAカリスタ美学・藝術論研究』
東京藝術大学美学藝術論研究会 発行
東京藝術大学 寄贈
- 『Q&A哲学の歴史』〈石井郁夫 著〉
弦書房 発行
石井郁夫氏 寄贈
- 『聖心女子大学論叢第110集』
聖心女子大学 発行
大塚美保氏 寄贈
- 『HUMIDOR Vol.17』
Cigar Republic 発行
寄贈
- 青羽芳裕氏 寄贈
- 『日本英学史学会報 Vol.114』
日本英学史学会 発行
寄贈
- 日本英学史学会 寄贈
- 『長沢郷 鷗外文庫だより第15号』
長沢郷 発行
尾崎健次氏 寄贈
- 『会報 大原文化大105号』
いすみ市文化財保護協会 発行
宮田忠郎氏 寄贈
- 『Ost-Asien』における森鷗外『舞姫』
(宇佐美濃守独訳)』
泉 健著 和歌山大学教育学部紀要
泉 健氏 寄贈
- 『むろらん 港の文学館通信』
室蘭文学館の会 発行
寄贈
- 室蘭文学館の会 寄贈
- 『広報 つわの Vol.27 28』
津和野町情報企画課 発行
津和野町役場 寄贈

川上先生、長い間、お世話になりました。
御冥福を心よりお祈り申し上げます。

▽記念室の運営受託の終了に伴う

森鷗外記念会の事務局について△

平成十八年度四月、森鷗外記念会が
文京区より受託した「鷗外記念室の運
営」が、前述のように鷗外記念室の休館
に伴って、三月三十一日をもって終了
いたしました。従いまして、記念室運営
に携わってきました事務局スタッフは
解散いたしました。

四月一日より、森鷗外記念会事務局
は、元のように記念会のみの仕事に戻
ります。事務局は、休館中の鷗外記念室
に置かれています。住所や電話番号、メ
ールアドレス等の変更はございません。
事務局長と、本年度も倉本幸弘が引
き続きその任に当たります。毎週、水曜
日と日曜日には出勤しております。

森鷗外記念会通信

No. 162

発行 平成二十年四月十五日

(年四回発行・四・七・一〇・一月発行予定)

編集責任者 倉本幸弘

発行所 森鷗外記念会

郵便番号・一一三〇〇二二

東京都文京区千駄木一―三―四

電話 ・〇三―五八三四―〇一五六